

第58回植物観察会 山田池公園「木の芽と木の実」

2015.1.27 (火) 9:30~14:00頃

日本野鳥の会大阪支部

平 軍二

090-6901-1425

g-hira@nifty.com

1. 冬、樹木を親しむために

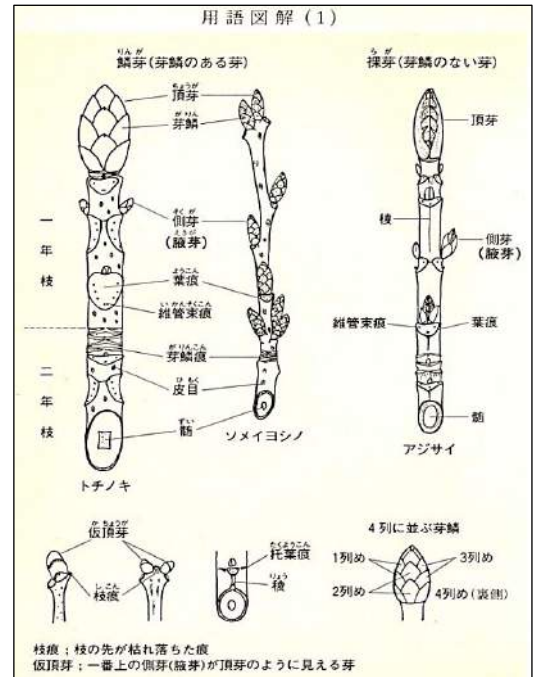
樹木を楽しむには、先ず名前を知ることから始まります。樹木の名前の覚えるためには、観察会への参加などで、観察回数を増やす必要がありますが、その順番としては、

①花の形 ②葉の形 ③木の実
になるかと思えます。

しかし今の季節、花は少なく、落葉樹に葉が無いので、①②での識別は難しくなり、③も実が鳥にたべられたり、朽ちて落ちたりして少なくなっています。そこで、木の芽を観察することにしました。

日本野鳥の会の観察会なので、木の芽と鳥の関係が説明できればよいのですが、あまり見た数が多くありません。鳥が木の芽に来るのは、木の芽が膨らんで新芽が出始めた頃で、木の実が無くなった時期が多いようです。

ウソ ソメイヨシノ・リョウブ マヒワ クヌギ・コナラ
ヒヨドリ ケヤキ レンジャク シダレヤナギ
ニューナイスズメ クヌギ・コナラ・ソメイヨシノ ドバト ケヤキ



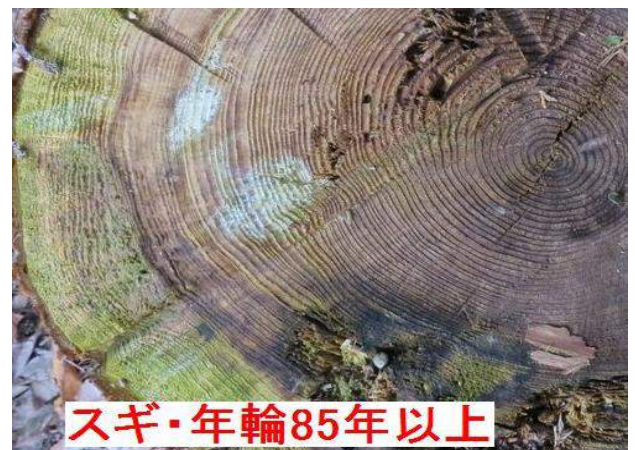
参考図書 検索入門「冬の樹木」 平野弘二著 1989年発行 保育社
「樹木の冬芽図鑑」 菱山忠三郎著 1997年発行 オリジン社(主婦の友発売)
「冬芽ハンドブック」 広沢毅 解説/林将之 写真 2010年発行 文一総合出版
「樹皮ハンドブック」 林将之著 2006年発行 文一総合出版
山溪ハンディ図鑑「木に咲く花 ①②離弁花 ③合弁花・単子葉・裸子植物」
写真 茂木透 解説石井英美他多数 2000~2001年発行 山と溪谷社

2. 山田池公園の歴史とスギの年輪

山田池公園の中心にある山田池は、水面の広さが約10ヘクタールと、大阪府下でも有数の大きな池です。その歴史は古く、灌漑(かんがい)用のため池として平安時代につくられたそうです。山田池のすぐ近くに弥生時代から古墳時代の住居跡や土器などが発見されるなど古い土地柄を物語っています。戦前は万羽を超える鴨の大群が舞い降りたといわれています。

山田池公園の北地区は、山田池を中心とした静かで落ち着いた雰囲気のパークとなっているが、昭和48年(1973年)より本格的な整備に着手し、昭和54年(1979年)10月1日に開園式が行われ、利用できるようになりました。一方南地区は、昭和60年(1985年)から始まった公共残土の受入れが161万m3となり、平成11年(1999年)度に終了した後に、本格的な公園整備に乗り出し、現在の形になっています。

ということで、山田池公園の木々の樹齢は40~50年と思っていたが、たまたま伐られたスギの株があり、樹齢をカウントすると85年以上ありました。



このスギは山田池公園で、唯一自然状態で保存されている春日山のふもとにあったので、公園が整備される前からあった木である証拠となりました。樹齢85年にしてはあまり太くないので、日当たりが悪かったのかもしれません。また、この木は根元で別れた2本立ちで、今回1本が伐られているものの、もう1本残っているのも同じ樹齢の筈、見届けることはできないもののいつまで生きてくれるのでしょうか。

3. 山田池公園の木の芽・木の実（+木の花）

写真はすべて
1/21山田池公園で撮影



アカメガシワ・芽



アカメヤナギ・芽



イヌビワ・芽



イヌビワ・実



イロハモミジ・芽



イロハモミジ・実



ウメ・紅梅



ウメ・白梅



カイヅカイブキ・実



カキノキ・芽



カキノキ・実



カスミザクラ？・芽



カラタネオガタマ



←新芽

ドングリ
↓

クヌギ



クロガネモチ・実



コナラ・芽



ケヤキ・芽



実と一緒に葉！
一枚ずつの葉！

ケヤキ



サザンカ



シダレヤナギ・芽



ソメイヨシノ・芽



ナギイカダ



ハゼノキ・芽



ハナズオウ・芽



ハナミズキ・芽



ヒサカキ・実



ピラカンサ



ブラシノキ・実



ボケ



マサキ



マユミ・芽



マンサク・花芽

5. 観察鳥 チェックリスト

科名	種名			
カモ	ツクシガモ	オシドリ	オカヨシガモ	ヒドリガモ
	アメリカヒドリ	マガモ	カルガモ	ハシビロガモ
	オナガガモ	コガモ	ホシハジロ	ミコアイサ
カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ		
ハト	キジバト	ドバト		
ウ	カワウ			
サギ	アオサギ	ダイサギ	コサギ	
クイナ	クイナ	ヒクイナ	オオバン	
タカ	オオタカ			
カワセミ	カワセミ			
キツツキ	コゲラ			
モズ	モズ			
カラス	ハシボソガラス	ハシブトガラス		
シジュウカラ	ヤマガラ	シジュウカラ		
ヒヨドリ	ヒヨドリ			
ウグイス	ウグイス			
エナガ	エナガ			
メジロ	メジロ			
ムクドリ	ムクドリ			
ツグミ	シロハラ	ツグミ	ルリビタキ	ジョウビタキ
スズメ	スズメ			
セキレイ	キセキレイ	ハクセキレイ	セグロセキレイ	ピンズイ
アトリ	カワラヒワ	シメ		
ホオジロ	カシラダカ	ミヤマホオジロ		



4. 植物追加メモ欄

6. ナラ枯れについて

「ナラ枯れ」という言葉を聞かれたことがあると思います。今回、久しぶりに山田池公園を訪れ、ナラ枯れの現状（というよりは惨状）にびっくりしました。森林総合研究所のレポートによるとナラ枯れとは、「**カシノナガキクイムシが病原菌を伝播することによって起こる、樹木の伝染病の流行**」と説明されています。

カシノナガキクイムシ（以下カシナガと略称）は甲虫目の1種で、ナラ菌と呼ばれる糸状菌を餌にしています。

- ①6～7月ころ、昨年、カシナガが入っていた木から飛び出し、健全な木に穿入する
- ②集合フェロモンにより、カシナガが集中的に集まり、木には縦横の坑道が作られる
- ③カシナガに同伴した「ナラ菌」が、カシナガの坑道で急激に繁殖する
- ④カシナガにアタックされた木の導管（水の流れ）が「ナラ菌」で閉塞され、真夏に枯れ始める。
- ⑤カシナガは坑道で産卵・幼虫・成虫と育ち、その年の秋または翌年夏に①で次の木へ移動する。



山田池公園のナラ枯れ状況は現地を確認していただきますが、遊歩道近辺で枯れた木は、事故防止のため次々伐採されていました。おそらく100本以上伐採中と思います。

- ・ナラ枯れしやすい樹種 ミズナラ・コナラなどブナ科落葉樹中心ですが、京都御苑ではスダジイ・マデバシイ・ウバメガシなど常緑樹にも防護対策がとられています。
- ・ナラ枯れしやすい樹齢 昔の里山は20年程で伐採されていました。1970年頃からの燃料革命で、里山の木の利用が無くなり、コナラなどが高齢化しています。カシナガにアタックされる木は弱齢樹では無く、高齢化している太い木、その面からは老木病と言えるかもしれません。
- ・ナラ枯れ地域 5～6年前京都東山で大発生、その後大阪府に侵入しています。枚方市穂谷で4年ほど前、交野市くろんど園地などで3年ほど前から被害が目立っています。

渡辺晋一郎氏によると、交野市内で**13年200本**ほど、**14年2000本**ほどが枯れたとのこと。

生駒山系を南下中のため、今年は**緑の文化園～枚岡公園**に広がると推定されます。

北摂地方も高槻市・茨木市・吹田市と南下しており、万博公園を含めて被害が出てきています。

京都市など、被害先進地域の実績から4～5年で終息に向かうと予想されます。



2013年吹田市紫金山 コナラ大木のナラ枯れ経過
(2007年幹周り 247cm)

7. 植物と鳥の歳時記の一例・イロハカエデ・カキノキ

先週1/20、他団体主催ですが、万博公園で「木の実(と鳥)」の観察会を行いました。その時、イロハモミジにイカル・シメ・アトリなどが来ていて、皆さんに楽しんでいただきました。

一方カキノキは、1/21に山田池公園の下見で、ヒヨドリが群れている所を見ました。

植物と鳥の歳時記

第2回

平 軍 二

万博公園の晩秋

3. イロハカエデ(伊呂波楓) カエデ科

花季：4月～5月 / 鳥季：12月～2月

秋は紅葉のシーズン、赤く、黄色く野山を彩る紅葉を楽しむため、箕面公園や嵐山、大原、そして高雄など近郊の名所には、沢山の人が紅葉狩りに出かけます。この紅葉の主は、7裂した葉を持つイロハカエデ(イロハモミジ・タカオモミジとも呼ばれている)を中心とするカエデ科の木の実です。

万博公園でも、日本庭園や自然文化園にイロハカエデが植えられており、11月中は紅葉を楽しむ人々で賑わっています。

これらカエデの鮮やかな紅葉が終わり、枯れ葉となって落ちた後に残っている木の実、竹とんぼのような形をした『翼果』が、今回の話題の主役です。

季節風に乘った雪が舞う日もある真冬の万博公園では、餌の実がだんだん少なくなり、残る木の実を求め小鳥達が公園内を飛び回るが、カエデも鳥が集まる木として見逃すことのできない木の一つです。カワラヒワ、イカル、シメなどアトリ科の小鳥やスズメ、そして時にはコイカルが首を長く伸ばして、このカエデの翼果をついばんでいます。

4. カ キ(柿) カキノキ科

花季：5月～6月 / 鳥季：12月～1月

「柿食えば 鐘がなるなり 法隆寺」と歌われるように、果物として栽培されている柿は、昔から秋の風物詩として親しまれてきました。お菓子が少なかった終戦直後に、食べ盛りの少年期を過ごした私にとって、秋にはお腹をこわすほど柿の実を食べたことや、何もない冬のおやつとして美味しかった干柿の甘さなど、なつかしい思い出のある果物です。

その柿の実が、鳥達にとって最も好まれる食べ物であることを知ったのは、鳥に親しみ始めてからのことです。

柿の実は、食べることでできる果肉が多くその上美味しいので、量・質とも第一級の木の実ではないかと思われまます。鳥達はその美味しさがわかるのか、柿の実を食べる鳥の種類も数も多く、いろんな鳥に喜ばれています。

万博公園内には植えられている柿の木が少ないのですが、千里ニュータウン周辺では、庭先に大きな柿の木のある家があり、しかも採られることなく熟したままに残されていることが多いので、柿の実に集まる鳥の種々相が楽しめます。

柿の木の下で待っていると、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ツグミ(シロハラ)、メジロ、カラスなどが次々に訪れ、時には、他の鳥と出会った時の勢力争い(鳥の強さの順位)を見せてくれるので、一日中退屈することがないくらいです。

8. 今後の予定(案)

次回観察会は昨年に続いて京都植物園と思っています。正式にはむくどり通信3月号でご確認ください。

場所・主題： 京都植物園「春の野草とサクラ」 月日： 4月2日(木)

集合： 9:30 京都地下鉄北山駅改札口を出て京都植物園北山門前広場 解散： 14:00頃植物園内

持ち物： 双眼鏡、あればルーペ、山野草図鑑、サクラ図鑑。弁当。

内容： 園内の「日本の森・植物生態園」は日本各地の山野に自生する野草(ミスミソウ・トキワイカリソウ・フタバアオイ・ヒトリシズカ・ニリンソウ)や樹木が自然に近い状態で植栽され、春の花盛りです。

また、園内で満開のサクラも観察します。

お願い： カラー資料を準備しますので、メールor電話で平宛に連絡ください。